

ちいさな証

病が与えられて19年

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会会員

主の御名を心から賛美致します。

今、こうして証を述べさせて頂ける恵みに感謝いたします。

早いものでスイスで生活するようになってもうすぐ20年になります。そして、痛みのある病が与えられてから19年が経ちました。いつ死んでもおかしくないと言われながらまさかこんなに長い間、生かしていただけるなんて思いもしませんでした。

スイスに来てから、これでもかというぐらいたくさんの試練が与えられ、何度も打ちのめされ絶望し“神様もうだめです”と何度泣き叫んだことでしょうか。でも、その度につまずいてもころんでも、どんなに主を遠くに押しやり孤独の中どん底に沈んでいても、主を近くに感じることができないようなそんな時ほど、神様はすぐ側にいて慰め、支え、そしていつも守って下さっていました。

これまでのことをお話すると“強いね。”とよく言われるのですが、決してそんなことはなく、誰よりも弱いからこそ与えられたのだと思いますし、私の力だけでは耐えることはできなかつたことでしょうか。

主がいつも共にいて支えてくださったので、病が与えられたことを、自分の賜物として感謝できるようになりました。そして、主を知らずに苦しんでいるすべての方が、主に出会って救われるようにと祈れるようになったことも、日々痛みがあって出来ないことが増えても、笑顔を忘れないでいられることも、身体障害者として生かされていることを苦にせず居られることも、すべてが私には到底できないことなのです。

従順な99匹を残してでも自分から離れてしまった一匹のために、必死になって探し見つけ出し、安全な場所まで大切に抱きかかえて連れ戻して下さる、愛と憐れみに満ちた方が共にいて下さるといことが、どれほど幸せで感

謝なことか、神様から離れさえしなければ何も心配することはないんですよね。

それを知っていながら主を悲しませることばかりし続け、信仰生活が長くなればなるほど、御言葉を学べば学ぶほど、自分の罪がどれほど深く大きなものであるかを示されます。自分の信仰だけを思えば絶望するしかないのですが、決して揺るぐことのないお方が“何があっても離れず見捨てたりしない”と約束して下さいますし、私達を創られた唯一の神様はいつもご自分の方から御手をのべて下さる愛そのもののお方です。その神様の愛をどう受け止め、どのように応えているのか？と問われたとき、本当は愛される資格のない私が一方的に愛されているのに、その愛に全く応えていなかったことに気付かされました。



私は主に従うのであって主を従わせてはいけないと頭ではわかっているが、ちっとも行いが伴っていないし、いつの間にか自分が中心になっていて呆れるばかりです。それでもその度に辛抱強く、考えられないほどの忍耐を持って私を訓練し、悔い改める機会を与えてくださいます。

これから先も、たとえ理解できない様なことが起こったとしても、一秒先のことすらわからない私と違ってすべてを御存知の主が許されて起こるのであれば、主が必ず最善へと導いてくださるので、“どうして”、“なぜ”と疑問を持つことなく、唯信頼して主の時を待ち望みたいと思います。

先の心配をせず、二度と戻って来ることがない与えられているこの時を大切に、喜びと賛美、感謝に満たされて主にお仕えできる者となれる様、少しずつでも成長していきたいと願っています。そして主を崇め主の良き僕となって忠実に命令に従い、口先だけでは無く、日々の生活において行いが伴う者となれるよう、祈り続けていきたいと思ひます。

